

私たちは仕事や勉強で行き詰まることはよくある。どうしてうまくいかないのか、別の考えはないかなどと見方を考えても、よほど徹底的に見直さないと、結局、同じような見方に戻ってしまう。パソコンの操作も同じで、いくらフォーマットしても同じような文言になってしまう。



中根 晃 (理事長・元実践女子大学教授)

みんなで考えるメンタルヘルス ②

失敗に学ぶ発想の転換

そうすると、そこで、どこかへ進んでいく必要がある。子どもはうまくいった経験を生かして、思ったことを実行する。周囲は彼を秀才と呼ぶ。しかし、よほど能力が高くないかぎり、二十歳過ぎればたまたま「人」になってしまふ。思慮深い大人へと成長していくためには、失敗したことを出発点から調べ上げて失敗から多くのことを学ぶという形で、それまでの人生でたくさん積み重ねていかなければならないのである。

それと並んで必要なのは、いつでも発想が転換できる柔軟性であろう。真の柔軟性にはそれまでに備蓄してきた知識と豊富な経験の存在が必要だが、学んで覚えることと同じくらい忘れることも大切なのである。ノーベル賞の受賞者がよく語るのが失敗から学んだという経験談である。実験がうまくいかなかった時、ふと流しを見たら何か光っていた。そこから探していた新しい物質の正体を捕まえることになったというエピソードなど、これに類することは多くの受賞者が口にする。しかし、この失敗の背後にたくさん努力があったはずである。

めておき、あとは時間があつた時に、そこから考えを進めていくと解決できた、という経験は多くの人があるのではないかとと思われる。とは言っても、全く新しい発想が生まれたというよりも、普段からいろいろな頭にあったことが、たまたま、うまく浮かんできたに過ぎない。しかし、できてしまつとそれで済ましてしまふので、やがてアイデアも底をついてしまふ。

日常生活で物事がうまくいかない時に繰り返しやってしまふのが、「手を替え品を替え」というやり方である。もちろん、これが功を奏することはいくらでもあり、周囲もそれを納得し、時には喝采もしてくれる。しかし、いつまでも同じ発想で打開しようとするれば、次第に周囲との摩擦が生じ、不信感も強くなっていく。この先には、状況が再

燃える青春

部活動拝見 文芸部

奈良県 県立奈良情報商業高校 2年

高橋 有理佐さん (17)



この奈良情報商業高校の会計ビジネス科2年で、文芸部副部長の高橋有理佐さんが今回の奨学生である。国語を教え、部の顧問をしている岸岡郁子先生は、部活の状況をこう語る。「文芸部と聞いていますか、生徒たちはイラストやアニメを描きながら、ほっこりしたおしゃべりを楽しんでますね。中には、小説を書いたり、詩や短歌を作っている子もいるような子が多く、それぞれが皆、現れてほしいようだよ。現在の部員は、2年生が8人、1年生が9人で、男子は2年の4人だけ。文芸部に入る子どもたちは、「小説を書いたり、詩や短歌を作っている子もいるような子が多く、それぞれが皆、現れてほしいようだよ。」



卒業生に贈る記念号の企画会議では、部員同士の熱を帯びた話し合いが続く

進路の悩み楽しい部活で癒す

部顧問の先生は、文芸部本来の、小説や詩、短歌をメインとする部活に戻した芸部副部長の高橋有理佐さんが今回の奨学生である。国語を教え、部の顧問をしている岸岡郁子先生は、部活の状況をこう語る。「文芸部と聞いていますか、生徒たちはイラストやアニメを描きながら、ほっこりしたおしゃべりを楽しんでますね。中には、小説を書いたり、詩や短歌を作っている子もいるような子が多く、それぞれが皆、現れてほしいようだよ。現在の部員は、2年生が8人、1年生が9人で、男子は2年の4人だけ。文芸部に入る子どもたちは、「小説を書いたり、詩や短歌を作っている子もいるような子が多く、それぞれが皆、現れてほしいようだよ。」

小さいときから好きだったイラストを描けるこの部に入部した。彼女が描いた人物像のイラストを見せてもらった。ほかの部員が好んで描くやまニャクなイラストというより、どこかどほけた感じが漂うタッチのイラストだ。「部活は楽しいですよ。仲のいい友達とおしゃべりしながらです。それに、先輩や後輩、普段なら絶対しゃべらない人もコミュニケーションがとれ、あの人にはこんな絵を描くんだとか、あの人には小説を書いてるんだ、ということも知ることができちゃいます。」昨年の文化祭の際に作った部誌では、全員が後万智さんの短歌から好きな歌を選び、歌のイメージをイラストにしたという。こういう楽しみ方を聞くと、今の高校生の発想の豊かさに驚かされる。高橋さんは、卒業後就職くとも3学期中には決めなければならない、と悩む高橋さん。桜の便りとともに将来の道が決まることを祈る。

「掛け違えたボタン」



岩手大学 教育学部 芸術文化課程 造形コース (美術専修) 3年

小野寺 愛

油彩・木製パネル

力作が満載の既刊の部誌「花鳥風月」



この学校に入部したときも、部活には気乗り薄だったが、1年生は必ずどこかの部活をやらなければならぬ、との学校の方針で、



奈良情報商業高校の1、2年生の部員たち (高橋さんは前列右から3人目)